



第12回うるま市「ありがとうの手紙」作文コンクール



「三線を通して」

与勝第二中学校 3年1組 **赤平 美海**



私は、何かをやり遂げたり継続するという事が苦手です。「もういいや」と、すぐに投げ出してしまいます。そんな事が続くと、さすがに自分でも少し反省して、「よし、今日から頑張るぞ」と決めても、結果は三日坊主で終わってしまうのです。そんな私が唯一、小学一年生から中学三年生の今日に至るまで続けられているものがあります。それが三線です。

私の住む平敷屋は、県内でも有名な平敷屋エイサーがあります。衣装も白と黒で他と変わっていますし、他の地域のエイサーとは、全然違うとされていて、自慢できる地域伝統芸能です。そしてこのエイサーこそが、私が三線を始めるきっかけとなったものです。

私の両親もエイサーが大好きで、よくエイサーを見に連れていってくれました。ですから、家にもパーランクーがあり、幼かった私もパーランクーを手に歌っていました。しかし、私が本当に興味をもったのは、パーランクーではなく、三線でした。「どうやって鳴らしているんだろう」と興味を持ち、「三線に触れてみたい」と思うようになったのです。

そんな折、いところが三線教室に通っていることを知り、一緒に通うようになったのです。三線を始めて五年目からは、コンクールに挑戦するようになりました。しかし、周りが皆、上手な人たちに思え、緊張のあまり、自分の納得できる歌が歌えず、手が止まってしまう事もありました。そんな時は、「ああ、私はこの程度しかできないんだ。」と、気持ちも沈み、三線から逃げそうになりました。すると、先生は、特別レッスンをしてくれたり、失敗しても怒らず、優しく根気よく指導をしてくださいました。また、少しでも上達すると、「上手になっているさー」と、すぐにほめてくれ、自信をつけていってくれました。そして、この春、若衆芸術祭がやってきました。先生は、コンクール当日、舞台そばで、「美海が一番上手だから、自信もって」と励ましてくれ、私も自分が納得できる歌を歌うことができました。その結果は、「若衆大賞」という大きな賞でした。三日坊主で、自信の持てなかった私を、ここまで成長させてくれたのは、三線の先生です。また、いつも見守っていてくれた両親のおかげです。本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

地域伝統芸能を守り続けている方々、三線の先生、両親、様々な人達のおかげで、私はこの賞を受賞することができました。そしてそれが、自分への自信へとつながりました。いつか、恩返しができるようになりたいと思います。